

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172100774		
法人名	社会福祉法人 墨友会		
事業所名	グループホーム サンヴェール大垣		
所在地	岐阜県 大垣市 東町4丁目43-2		
自己評価作成日	平成28年6月29日	評価結果市町村受理日	平成28年10月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは5つの事業体(特養他)と併設され、その強みを十分に活かしながら、介護・医療のサービスをはじめ行事活動なども連携し支援できる運営体制となっています。ご本人・ご家族とスタッフを含め皆が安心・安全・快適を実感できる生活空間の確保とスタッフ間のきめ細かい情報共有によって孤立感はありません。また、ご利用者は無理なく個々に合わせた自然な流れの日常生活を営まれ、衛生的で落ち着いた環境の暮らしの中で、お互いが触れ合う時間を大切にしながら、ありのままを受け入れた笑顔の絶えないホームが築かれています。また、近隣の数施設のグループホームとは合同の家族会や研修会を毎年開催して連携を深めています。特に施設内にある喫茶「サンカフェ」や「屋内足湯施設」の利用ではご本人・ご家族・スタッフのみんなの気分転換ができ、近隣の方の気軽にご利用も毎日のようにあることから、地域の接点として自然な交流も生まれ、健康増進にも役立ち好評を得ています。施設敷地の共有の畑では野菜・果物の収穫による季節感を楽しんでいただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者のその人らしい人生の継続の支援に「ゆっくり」「じっくり」「しっかり」取り組み、寄り添った支援をしている。利用者や家族との信頼と安心の築き方、職員の介護力の向上という課題の一つひとつ向き合っており、小さな事でも利用者が興味があれば、意欲を引出し活性化に繋げている。併設事業所と連携し職員の研修、介護長の助言・指導等一体になって運営協力が得られ、利用者や家族・職員の安心になっている。またカフェ・足湯等が地域にも開放され住民同士に限らず事業所利用者との交流の場になり、新しい馴染みの関係ができています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人といよの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成28年8月26日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念、スローガンは各自が名刺の中に入れ、常に確認できるようにしている。またグループホーム独自の理念については、毎月会議にて見直しを行い、分かりやすい場所に貼り実践につなげている。	全職員が理解・共有している。支援が理念に沿っているか、ユニット会議で振り返りを行い、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事、活動などの情報からそれらに参加したり、散歩や買物等に出かけ地域の方たちと挨拶を交わし、関わりを持つ努力を行っている。また施設1階サンカフェでは地域一般客とも接し、楽しいお茶の時間を過ごしている。	併設事業所内のカフェや足湯・地域交流室は地域に開放し、利用者との交流の場となっている。また、年4回の通信を地域へ配布、回覧している。管理者は老人会の会合に講師として出掛けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設施設であることから、施設内事業所、外部事業所との接触機会が多いので努めて連携できるように心がけている。また1階サンカフェは直接的な地域窓口として自然な交流を促し、直接・間接的な支援・実践を試みている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回利用者状況・行事など、取り組み事項の内容について報告し、各委員から助言・提案を頂いている。自治会長の協力を仰ぎながら、会議により多くの地域の人々が気軽に参加して頂ける様に働きかけを行っている	現況や取り組み状況報告後の意見交換では、季節毎の衛生上の留意点や地域行事案内、介護の課題等活発な意見が出されている。各委員からの意見を地域交流や日常のケア、家族会の運営等に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期報告に加え、行事案内の通知を通して連絡・意見交換ができる様にしている。管理者は市に出向き、市長村との関係を良好に保つように努め、近隣グループホームとの交流内容について報告している。	頻回に地域包括の職員の訪問がある。定期的に事業所の取り組み状況の報告をしている。近隣のグループホームと合同研修会を立ち上げ、質の向上や効果の上がる事業の推進等の研修内容を市に報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしない方針であり、マニュアルも整備している。併設施設を含めた全事業体で施設内研修や安全対策委員会からの身体拘束回避の理解、知識習得への取り組みを継続している。	職員は拘束の研修や会議で弊害や取り組みについて学び理解をしている。利用者に対してその人に合う支援を模索して拘束しないケアを目指している。しかし、見守り体制が手薄の時は安全重視の為施錠をすることがある。	利用者の安全は重要であるが、施錠以外の方法がないか会議等での再確認、再検討が望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルに基づき、施設内の安全対策委員会によるミニ研修などを行い、具体的にどんな行為が虐待につながるのか等、知識の習得に努め実践している。		

グループホーム サンヴェール大垣

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本グループホームで成年後見制度が必要なケースは今までなかったが、制度の周知はグループホーム会議内で資料配布したり、ホーム内掲示など行い、意識向上を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて、納得頂けるまで丁寧な説明を行い、不明点が生じないように心がけている。契約時には事業所の運営理念やユニット内の様子、サービス対応可能範囲についてなど説明し見学もして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活のご利用者様の言動から様々な思いや考えをくみ取り、利用者様本位のケアを心がけている。またご家族様には何でも言って頂ける雰囲気作りにも努め、要望・意見はユニット会議などで話し合いケアや施設運営に反映させている。	利用者や家族とは気軽に話し合える環境や関係作りをし、意見や要望を聞いている。薬服用の場合は副作用をも考慮した対応を説明している。歌の好きな利用者の希望によりカラオケルームを作った。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は月々のユニット会議や日常勤務の中で職員の意見を聞き、日頃からコミュニケーションを図るよう心掛けて意見が伝わりやすい環境づくりに努めている。	タイムカードの位置を変えることで、管理者は、必ず職員と顔を合わせ表情から体調を読み取り、コミュニケーションを図っている。各種委員会では、目標を決め職員の気付きを活かせるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各スタッフの得意分野(料理・お菓子作り・壁面製作・工作・裁縫・園芸など)を活かせる職場環境を整え、ご利用者とともに楽しみながらやりがいと向上心を持って業務ができるようスタッフ個々のペースに任せ、勤務調整などを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修・ユニット会議内研修・職員ミーティング内での研修を励行している。各スタッフは外部研修へ計画的に積極参加するよう課している。また個々の上級資格へのチャレンジを促しており、ここ5年で3人のユニットスタッフが介護福祉士に合格している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームケアマネージャー情報交換会への参加を通じた交流や、近隣グループホーム施設との連携を図っており、継続して近隣の複数事業所が連携して交流・勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活状況を把握し、本人との信頼関係が築けるよう本人の思い・希望・不安をしっかりと受け止め、ご家族様とも連携を取りながら、常にご利用者の居心地の良い生活の場となるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご家族の苦勞、困っていた事、不安だった事、要望などに事業所がどのような対応ができるのかを事前に話し合い、ご家族を理解しながら密接な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談での話し合いで、ご本人やご家族が今必要としている支援を見極め、施設相談員・医師・看護師との連携を取り、困難な問題に対しても速やかに対応が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは利用者様と共に生活する者としてお互いに支え合い、思い合える関係作りに努めている。人生の先輩でもある利用者様から知恵や技を教えて頂くことも多く、意見を生かしながらお互いに感謝する関係が築けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には面会時や電話にて日常の様子を細かく報告し、ご家族の意見や思いを十分に受け止め、共に同じ思いで支え合えるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人がこれまで生活してこられた地域との関係や人間関係などを把握し、変わらない交流が続けられるよう、自宅・地元・お墓参り・馴染みの場所への外出を行っている。	暑中見舞いや年賀状などに職員が一言付け加え、文章の書けない人には写真を掲載している。関係が途切れがちな家族には電話をしている。毎年誕生月には、職員が二人付き添い自宅や墓参り等外出を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個人の性格、利用者同士の相性・関係を把握し、その日の状態や気分を注意深く観察しながら、無理強いはず、共に暮らす仲間として穏やかな関係が築けるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られてもお互い行き来したり、行事にお誘いするなど関係継続に努めている。またご本人の情報提供を行い、新しい事業所での生活に役立ててもらえるよう支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	まずはご利用者様が自分の思いを言いやすい環境作りを心掛けている。コミュニケーションの場を多くとりながらその思いを理解し、会議や申し送り時に情報を共有したり検討している。必要に応じて看護師とも連携を図り、対応している。	利用者とは話し易い環境を作り、職員の経験、気づきを積み重ねて、言葉や表情からお思いを汲み取り、その人に合った支援方法を見つけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サマリーやアセスメント表などからスタッフ全員で情報を共有して把握に努めている。またご本人・家族様との会話から必要情報を見い出して暮らしやすい環境に近づけるよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご自分のペースで安心して過ごして頂ける環境作りを心掛けている。また出来る事、得意な事を把握し、生かしていけるケアを検討している。状態変化があればスタッフ間で情報共有し、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様やご家族の意向をもとにアセスメントし、会議での話し合いで職員の意見を取り入れながら介護計画を作成している。また状態変化などを毎月評価表に記録し、それをもとにプラン見直しを行っている。	毎月、ユニット会議で計画・目標達成に向け課題や解決策を検討している。職員の意見を取り入れ、担当者会議で関係者と話し合い介護計画を立てている。変化があれば随時、見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録ファイルに毎日の様子や本人のありのままの言葉、ケアの実践・結果、気づきなどを随時記録し職員全員が目を通すことで、利用者の状態を継続的に把握している。記録をもとに次のケアへつなげていける様にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様ご家族の要望で、家族に代わり受診、自宅への送迎など柔軟な支援を行っている。又ホーム内で解決できない問題については、併設施設内で相談・話し合いを行いホーム内の枠を超えた支援ができるように努めている。		

グループホーム サンヴェール大垣

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営会議の実施、保育園・幼稚園との交流などを行い、地域とのつながりを大切にしている。また年4回四季報を発行し、グループホームでの活動報告を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院以外のかかりつけ医受診は、本人の健康状態を口頭や文面でお伝えした上で、ご家族同行での支援としている。受診結果は看護師が家族から報告を聞き、職員へ申し送りを行い連携している。	かかりつけ医に家族付き添いで受診し、結果は看護師が把握し職員と共有を図っている。かかりつけ医の往診もある。入院時は、身体機能の低下を避ける為、看護師が医師と連携しながら早期退院に取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々利用者様の状態を観察し、訴えにも傾聴しながら、異常があればすぐに看護師に報告を行っている。夜間における連絡体制もできており、迅速に看護や受診を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院までの体調変化など情報提供を詳細に行い入院時には病院見舞いなどの本人支援に加え、本人家族との話し合い・病院との連携を図りながら、より良い治療を行い、早期退院に向けた支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人家族の希望を伺いながら医師・看護師・相談員・リーダーが話し合い、出来る限り希望に沿った支援ができるよう努めている。職員はターミナル研修を受けているが、本人の苦痛や希望、ケアの限界などを考慮しながら病院や併設施設での支援に切り替えている。	入居時に事業所の方針を伝え意思確認書を作成している。状態変化の都度、利用者や家族の意見を聞き、医師・管理者・看護師・介護長と相談し、支援の方針を決めている。関係者と充分話し合い、納得を得て事業所か併設施設での看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故発生時のマニュアルを全職員が周知し、迅速な行動がとれるよう職員同士のコミュニケーションを密にしている。また看護師や外部の講師から器具の使い方や応急手当の研修を受け、技術習得を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	グループホーム単独で毎月避難訓練を実施し避難に慣れて頂いている。また四季報に避難訓練の日時を載せ近隣住民の参加を促している。器具確認・消火器訓練は、併設施設と共に夜間想定を含んだ年2回以上の避難訓練を行い災害発生に備えた食料・飲料水など備蓄をしている。	毎月避難訓練を行い、併設施設と合同で夜間想定を含む年2回の消火・避難訓練を行っている。水・食料の備蓄があり、市の避難指定所にもなっている。併設施設との連携・協力体制があり、近隣への協力依頼もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの思いを大切に、尊厳・誇りを損なわない言葉かけ・対応を行っている。入浴・排泄・更衣などにおいては、プライバシーを尊重し環境整備を行い、配慮している。	入居前に家族の意見を基にカンファレンスを行い、事前に対応を検討している。プライバシーに関して入浴、排泄委員会で定期的に研修を行い、課題があれば会議で話し合い、利用者のケアに対して助言を受けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者とのコミュニケーション時間を多く持つことで本人の思いや興味のあることなど、希望に沿った支援を行っている。また自己決定できる状況をつくり、生き生きと生活して頂ける環境作りにスタッフ全員で努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者一人ひとりの体調を十分に理解し、日々の表情やしぐさを見守りながら、希望を聞いたり興味が湧く事柄にお誘いするなど、ご自分のペースが崩れないよう、無理なく思い思いに過ごして頂けるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入所前から使用のスキンケアグッズを継続利用してもらい、出来る限り着る服は自己選択を促している。メイクアップやネイルアートをレクの一環として行い、整容することで生活感にメリハリを持って頂けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	併施設設で調理・配食はされるが、ご飯や汁物類・お茶はユニットで用意している。一緒に台拭きや配膳を促したり、時には共に調理を楽しみながら、食事会やおやつ作り、行事弁当を食べたり、季節感を味わう楽しさを支援している。	介助を必要とする利用者が多く、嚥下を確認しながらゆっくり食事介助している。重度の方も口から食べる楽しみが続くよう努めている。利用者の状況に応じておはぎにしたり、パンやカレーを掛けるなど工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事・水分摂取量を記録し、一人ひとりの健康状態や変化の把握に努めている。また看護師や管理栄養士の助言を貰いながら、必要に応じて食事・水分量の調整、栄養補助食品や自助具の利用、介助方法の工夫などを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔内の状況・ケア能力・習慣に合わせた見守り介助を行っている。また細部の口腔ケアについては、本人家族と相談したうえで定期往診でみえる歯科の先生にお願いし、清潔保持に努めている。		

グループホーム サンヴェール大垣

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々のパターンや兆候に合わせてトイレ誘導を行っている。立位・歩行困難な利用者でも残存能力を生かしながらできる限りトイレでの自力排泄ができるよう2人介助で支援している。	昼間は一人ひとりの排泄パターンや状態に応じトイレ誘導している。立位困難の利用者には2人介助で支援している。夜間は良眠とトイレ排泄のどちらにするか状況に応じて対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	施設周辺の散歩やレクリエーション、民謡体操など体を動かす機会を作っている。また便秘傾向のある利用者には、バナナ・ヨーグルト・牛乳・青汁などを朝食やおやつに多く取り入れ、自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に火・木・土週3回昼間の入浴としており、体調・希望・外出に合わせて他の時間・曜日の入浴を行っている。季節に合わせて菖蒲湯・柚子湯など好きな音楽をかけながら個人の希望に合わせてゆったりと入浴を楽しんで頂く工夫をしている。	菖蒲湯や柚子湯の他、入浴剤を用意し、好きな音楽を流し、職員と会話し歌を歌うなどゆったりと入浴を楽しんでいただける様工夫している。拒む人には、時間や誘い方を変えるなど快く入浴できた時の対応を職員間で共有している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひと休みできるソファやマッサージチェアをリビングに配置し、リラクセスして過ごして頂いている。夜間不眠傾向のある方には、テレビ・CD視聴・話し相手など、その人に合わせて環境整備を行い安心して自然な入眠を促すよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報ファイルにて全職員がいつでも薬の内容を把握できるようにしている。また毎日の心身の状況変化を観察・記録し、看護師・家族と連携をとりながら服薬支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買物を楽しむ方、仏壇でお経をあげる方、職員と一緒に洗濯たたみ・新聞整理などの手伝いをして下さる方、編み物・生け花などご利用者が個別に楽しみや役割を持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を把握し、利用者と職員が少人数でゆったりと外出できる機会を設けている。近所のスーパーやコンビニ・薬局などへの買物や自宅・神社・花見・飲食店など一人ひとりに合わせた外出支援・気分転換を行っている。	外出が利用者の気分転換につながる様、頻回に出かけている。遠出の際は、家族と相談し、看護師が付き添い希望の場所に出かけている。利用者の笑顔が生まれるきっかけや気づきを共有して、個々の思いに沿った外出の支援に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と話し合いながら、自己管理の可能な方には財布を手元に持って頂いている。また利用者の希望や力に応じて、買い物時は本人がお金を所持して支払いする機会を持つように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話や手紙のやりとりができるよう支援している。年賀状作成は写真入りを手書きで送るなどして、ご家族や大切な人との触れ合いを大切にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	随所に利用者と職員が共同制作した作品や生け花を飾り、ベランダには野菜・花のプランターを置くなど生活感・季節感のある空間づくりに努めている。また玄関にポストや下駄箱を、居間には仏壇やソファを置き、馴染みのある家庭的な雰囲気作りを心掛けている。	下駄箱の上に花を生け、職員と一緒に作った和小物や作品・利用者の写真を共有空間に飾っている。リビングの仏壇へのお詣りは利用者には当たり前の所作で心の拠り所となっている。ソファや縁台・マッサージ機等を配置し、家庭的な雰囲気を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の性格やそれぞれの相性、希望などを考慮して席や机の配置を工夫している。また壁の随所や窓際にソファを置くなどして、思い思いの場所で居心地良く過ごして頂けるよう環境整備を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはテレビ・鏡台・写真・編み物・習字道具・小物類など、在宅時から使用していた馴染みのあるものを持参してもらっている。転倒など安全面にも配慮した設置を行い、本人の安心感と居心地の良さが得られる支援に努めている。	好みで布団で寝起きしている利用者には小さなスロープを使用し転倒を防止している。使い慣れた鏡や椅子・テレビを持ち込み、家族写真や贈り物・小物作品を置く等、本人にとって馴染みのある居心地の良い居室にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	注意を促す手紙を貼ったり、ベット横にマットを敷き低床にして転倒を防ぐなど、ハード面だけに頼らず日々の安全に心がけ本人の状況をみながら環境整備・自立支援を行っている。		

